名古屋市社会科同好会

人とのつながりを大切にした

同好会ひろば

第253号
H27．7．8
No.2

平成２７年度フィールドワークは、

「日本の食の未来を探る」
～三重県の伊勢マグロ養殖業と農業研究～

です！

今年も「フィールドワーク」の季節がやってきました。今年は８月７日（金）に三重県方面に向かいます。三重県といえば、2013 年の伊勢神宮の式年遷宮に続き、来年には伊勢志摩サミット開催が決まり、活気づいているところです。活気のある三重県は観光だけでなく、伊勢茶や南紀みかん、伊勢志摩の新鮮な魚介類、真珠養殖など農林水産業も盛んです。

一方で、農林水産業従事者の減少や食料自給率の低下、食の安全性など日本の食を取り巻く問題は深刻です。そのような中、将来にわたって持続可能な食料確保と安全で質のよい食料生産を図るため、問題解決に向けて頑張っている人々がいます。そこで、今年度のフィールドワークは、「日本の食の未来を探る」と題して、三重県の伊勢マグロ養殖業と最先端の農業研究の様子を学んでいきたいと思います。

南伊勢町・ブルーフィン三重（伊勢マグロ養殖施設）

伊勢マグロとは、三重県内で捕獲された稚魚を使い、南伊勢町の神前浦で養殖されたクロマグロで、毎年３万尾のクロマグロを養殖しています。生けすを見学したり、養殖業に関わる様々な取り組みについて話を聞いたりします。また、餌やり体験もできます。

松阪市・三重県農業研究所

「低リン米」とは、精米製法を独自開発し、通常米よりリンやカリウムの含有量を４割以上低減した米で、腎臓病の患者の願いをかなえることが期待されています。加工米という新しい米の研究開発について、施設見学をしながら話を聞きます。

普段なかなか行けない所へ足を運び、様々なものを見たり、人に直接会って話を聞いたりして、社会科教師としての見識を深め、今後の授業に生かしていくのがフィールドワークです。フィールドワークを通して、参加者同士の親睦を深め、多くの人とつながることもできます。

詳細につきましては、**中区　橘小学校　山口喬史**までお問い合わせください。

【第２５３号　紙面】

今年のフィールドワークは「三重」・・・（ｐ１）
６月全体会　ご講演
文科省初等中等教育局教育課程課教科調査官
澤井陽介　先生・・・（ｐ２・３）
小学校部会の活動報告・「声」・・・・（ｐ４・５）
中学校部会の活動報告・「声」・・・・・（ｐ５・６）
授業力アップ研修グループリーダー・・・・（ｐ７）
・サブリーダーの紹介
日々雑感　黒神秀智先生（志段味東小教頭）・・・（ｐ８）
今後の予定・・・・・・・・・・・・・・・・（ｐ８）

６月全体会　ご講演

「これからの社会科授業づくり」

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官　澤井　陽介　先生

６月 23 日(火)にルブラ王山において、全体会が行われ、多数の会員の先生方が参加しました。澤井陽介先生に、次期学習指導要領改訂の方向性、社会科の授業づくり等について、ご講演していただきました。

■学習指導要領の改訂で検討していること

今、注目されているのは「どのように学ぶか」という点です。アクティブラーニングという言葉は、広い意味では、能動的な学習の総称として用いています。ディスカッションや体験学習などの活動を通して、子どもたちがよく考え見通しをもって取り組み、主体的、協働的に課題を発見し追究していきます。

「何ができるようになるか」については、出口の学力を定めることから改訂を始めています。つまり、選挙権が 18 歳から与えられるようになることを見越し、高等学校の社会系科目をアクティブラーニングで変えようとしているのです。高校で身に付けたい力が定まれば、それに合わせて小・中学校の社会科がどのようにしていけばよいかも決まります。そして、小学校と中学校の社会科がつながるようにしていかなければなりません。現実には小・中学校では学び方や内容が違います。小・中学校の社会科がつながれば、学習内容のすみ分けができます。小学校で身に付けた社会科のスキルを中学校で発展させることができます。そのために、中学校はアクティブラーニングをもっと意識しなければなりません。

■社会科ならではのもの

社会科ならではの見方とは、時間、空間、関係という視点で社会的事象を捉えるということです。例えば、産業学習で、日本地図を使って事象を面で捉えるということを忘れてしまえば、地域の学習か日本全体の学習か分からなくなってしまいます。歴史学習も同じです。先人の開発を１時間だけ切り取ってみたら道徳と同じです。先人の開発を時間経過で捉えたり、工夫の意味や目的を考えたりすることを、地図や年表を使って整理していけば、社会科になります。

社会的事象の意味、すなわち国民生活にとっての意味や働きを考えていったり、自分たちの生活と関連付けて考えたりすることが大切です。そして、いろいろな立場で多面的、総合的に考えていくこと、未来のことや自分たちの関わり方を考えたりしていくことも大切です。

時代が変われば社会に対する見方や考え方は変わっていきます。そのため、学習指導要領では、これを教えなければいけないという内容ではなく、子どもが獲得していくものとして改訂していこうとしています。すると、資料や問いがより社会科らしくなると思います。

■教材研究に必要なこと

「社会科は何を学ぶ教科か」を研究するためには、教材研究が必要です。その時に大切にしたいのが「社会を見つめる」ことです。名古屋の研究にも「社会を見つめる」「社会が分かる」…とあります。社会科は人間の働きを通して事象の意味を分かるようにしています。「工夫や努力」というのは、何をしているかが分かればよいのではなく、追究の視点です。その視点で、人々の営みの意図や目的を見抜くというのが教材研究になります。

また、指導要領や教科書に基づいて事象の意味を分析することも大切です。例えば、スーパーマーケットに30種類のシャンプーが並んでいます。並んでいることが工夫なのではなく、30 種類を並べることで消費者のニーズに応えようとしていることが工夫です。こうしたことを、教師自身が考えることが大切です。教師が「なぜ？」と思ったものは子どもも興味をもちます。そこで、学習指導要領に沿って、子どもに何を学ばせるかを考えてほしいと思います。

そして、社会科ですからデータや事実を大切にしてほしいです。価値だけを話し合うのは違う教科でもできます。実際の様子や自分の体験も含めて、見付けた情報で推論を組み立てていくことが、社会科では大切です。

■どのように学ぶか～アクティブラーニングは問題解決学習の充実～

文科省では、学びのプロセスをしっかりと作るように言っています。小学校社会科の基本形は、社会的事象と出会って情報を集め、整理して発表することです。平成 20 年の指導要領改訂では、それに見通しと振り返りという要素を入れました。名古屋の研究が行っている、認識レベルを動かしたり、振り返りの仕掛けを作ったりしているのは、これに当たります。興味深い研究です。自分の学習がどう変わったか、自分は何ができるようになったか、誰の意見が参考になったかということを、これまであまり子どもに言わせたことはありませんでした。だから、学習と社会がつながらないのです。メタ認知と呼ばれるようなこうした学習を進めているのが、新しい感性をもった名古屋の研究です。これは、子どもが学習の見通しを立て、主体的、協働的に課題の発見や解決に取り組むアクティブラーニングの充実につながります。

■学習問題の作り方

学習問題が一つか二つということは重要ではありません。この問題を追究したら、学習のまとめが想定できるということが必要です。学習問題は大きな橋をかけるようなイメージで、毎時間の問いが存在する入れ子構造のようになっています。大事なのは、どのような問題かということではなく、何を調べるように仕掛けるかということです。皆でこれを調べようという橋を架け、毎時間の問いで、社会的事象の意味を考えさせる仕掛けを作るようにすることが必要だと思います。

■深く考える、学び合う

この場面設定を「名古屋らしくする」ことが大切です。学習者の振り返りや深く考える場面設定など、学び合い、生き合うということを前面に出してやっていただきたいと思います。授業は生き物です。子どもとのやり取りを積み上げていくものですから、焦る必要はありません。公開授業だけが大事なのではなく、そこに至るまでやその後に及ぶプロセスに意味があります。大変意義深い名古屋の研究に期待しています。

５月小学校部会活動報告　５月 29 日（金）於 愛知県スポーツ会館

小学校部会では、１学期、子どもが社会的事象について主体的に追究するための学習問題づくりと、子どもの思考や問題意識がつながる「分かる段階」から「関わる段階」への学習の流れの２点に焦点を当てて研究に取り組みます。提案された各学年の学習問題と「分かる段階」から「関わる段階」への学習の流れは以下の通りです。

※ 4・5・6年生グループは、学習問題づくりを重点にした実践①と、「分かる段階」から「関わる段階」への学習の流れを重点にした実践②がそれぞれ提案されました。

学年「単元名」	学習問題	学年「単元名」	「分かる段階」から「関わる段階」への学習の流れ
3年生実践「市の様子」	猪高学区と他の地域とは、どのような違いがあるのだろうか		まず、名古屋市の様々な地域について「地形」「土地利用」「交通」の視点で整理してまとめる。その後、学区と市内他地域とを「地形」「土地利用」「交通」という視点で比較し、共通することや異なることを見出すようにする。
4年生実践①「交通事故からくらしを守る」	わたしたちのまちの交通事故を減らすために、だれがどのようなことをしているのだろうか	4年生実践②「地震からくらしを守る」	まず、「市役所」「消防署」「地域」のそれぞれの立場の取り組みや立場の協力関係について明らかにする。その後、避難所で手伝いをする子どもの様子を示す写真資料を基に、学習をしてきた「市役所」「消防署」「地域」以外に、災害発生時に関わることができる立場として、自分にできることを考えるようにする。
5年生実践①「自給率６％？国産豆腐を支える三河産大豆の未来」	自給率 6%を支えている三河産の大豆はどのようにつくられているのか	5年生実践②「米づくりのさかんな地域」	まず、農業を支える人々の工夫や努力を愛知県と庄内平野の米づくりの共通点や相違点から見出すようにする。その後、米づくりの問題に出合うようにすることで、「今後もあいちのかおりを食べられるようにするためには何が必要か」という問いについて考えるようにする。
6年生実践①「３人の武将と全国統一」	３人の武将は、なぜ 400 年以上経った今でも親しまれているのだろうか	6年生実践②「３人の武将と全国統一」	まず、３人の武将の業績について分かったことを共有する。その後、３人の武将の業績について、民衆、武士の立場から点数をつけて評価をし、評価した理由を文章にまとめるようにする。

ご指導・ご助言　　名古屋市社会科研究会　副委員長　正保小学校　須田　洋　先生

○　学習問題については、「学習指導要領の目標に迫ることができるか」「子どもの問題意識が高まっていく流れの中で設定できるか」という２点から検討し直す必要がある。

○　関わる段階への流れについては、澤井陽介先生が著書の中で「学習の振り返り」と「新たな事実との出合い」の二つの例を挙げているので参考にしたい。子どもの「どのように～」という問題意識が「なぜ～・どうしたら～」という問題意識へと質的に変化していくように学習の流れを計画し直す必要がある。

ご講演「社会科教師としての歩みを振り返って」
名古屋市社会科同好会小学校部会長　ほのか小学校長　中村　好孝　先生

同好会との出会いは、先輩の先生からの紹介だった。その先生とは、五島列島まで足を運び、漁協や栽培漁業センターを取材したり、定置網漁の船に乗ったりして、教材化を行った。教材を作る上で、まずは教師の驚きが大切であることを感じた。

５年目研修では、「とことんする」「体験を活動の核にする」ことを学んだ。指導していただいた先輩からは「誰にも負けないくらい、教材研究をしなさい」と言われ、学童疎開について必死に教材研究をした。

10 年目研修では、公開授業者となり、仲間と協力して名古屋南部の開発について実践を行った。また、防犯連絡所を取り上げ、「盗難を防ぐ」の単元で、同好会の仲間と指導案を練り上げ、実践し、その成果を２年度の全小社研で発表した。社会科の優しさと厳しさを強く感じた。

研究員時代は、先進的な考えを訪ねた研究者から学ぶことができ、大変刺激的であった。子どもが主体的に取り組む授業の在り方や子どもの考えの表出の仕方などについて、研究員仲間と議論し、確かな考えをもつことができた。

16 年度の全小社研では、実践から導き出される理論は何度も書き直した。しかし、部員同士が思いをぶつけ合う中で、新たな考えが導き出されていくことを実感した。時には、腹をくくって物事を進める経験も味わった。

28 年度の全小社研では、会場校の校長として、実践される先生が、「苦しいことはあったけど、教師として力がついた」と思えるようにしていきたい。そのために、同好会の力を貸してほしい。その結果、同好会会員にとってもプラスになるよう、すばらしい大会にしていきたい。

５月小学校部会に参加して

５月小学校部会に参加した先生方から、様々な声が寄せられました。寄せられた「声」の中から一部を紹介させていただきます。

○　千種小学校　　星　英智　先生

中村先生が、教材研究のために、五島列島で漁船に乗せてもらったり、図書館で古地図を探したりした話を聞き、教材研究に熱心に取り組むことが、よい授業を生むことが分かりました。また、同好会の先輩や仲間と研究を進めることによって、力量を高めることができることに改めて気付きました。

○　西山小学校　　脇田佐知子　先生

小学校部会に参加して、中村好孝先生のご講演の中で、「誰にも負けないくらい教材研究をした。」という話が一番印象に残りました。教師が教材研究をしっかりして指導に当たれば、子どもたちが興味をもって学習に臨めるだろうなと思いました。夏休みなどの時間を有効に使って自分自身も驚き、楽しいと思える教材を見付けたいと思いました。

５月中学校部会活動報告　５月 29 日（金）於 愛知県スポーツ会館

５月例会では、今年度の各分野グループ推進計画について意見交換しました。各分野で「目指す子どもの姿」を設定し、それに迫るための「学び合い」の学習活動、社会との関わりをとらえさせる「教材化」について提案があり、質疑・応答が行われました。会では活発な議論が交わされ、「分野の特性を大切にすべきである。」「よりよいとは何か。子どもの姿で具体的に示すことができるとよい。」などの助言をいただきました。

会の後半は、社会科同好会副会長の津賀田中学校長　笠島修先生にご講演いただきました。「ときの流れを的確にとらえる」と題して行われたご講演は、笠島先生ご自身の経験を踏まえ、豊富な資料を交えながら、エネルギッシュにお話しいただきました。

５月例会は、部長・副部長・推進部員はもちろん、新入会の若手の先生にも参加していただくことができました。ベテランと若手が議論を交わし合い、「人とのつながり」を深める中学校部会にしていきたいと思います。次回（７月例会）は７月 24 日（金）18：30 から愛知県スポーツ会館で行われます。みなさん是非ご参加ください。

ご講演「ときの流れを的確にとらえる」
名古屋市社会科同好会副会長　津賀田中学校長　笠島　修　先生

『ハイコンセプト』（ダニエルピンク著・大前研一訳）によれば、話にはしっかりとデザインを描き、物語性をもつことが大切である。議論を尽くすことも重要だが、内容を構造図で表すことができるとなおよい。また、現在歴史上「第４の波」がやってきているとある。第１の波とは約１万年前の農耕・牧畜の開始により、安定した農業生産ができるようになった時代。第２の波とは産業革命により、工業化が進み、人口が爆発した時代、第３の波とは約 50 年前の高度経済成長からバブルに至る時代。この時代を我々世代は謳歌しながら生きてきた。そして「第４の波」として、インドの時代が来るのではないかと言われている。

ときの流れを的確にとらえることは難しい。「ハイコンセプトな時代」とは「新しいこと」を考え出す人の時代である。中３国語の全国学力テストに資料を踏まえて「あなたは 2020 年の日本はどのような社会になっていると思いますか？」という未来予想を問う問題があったが、社会科教師として的確に答えることができるだろうか。

私は 1956 年生まれである。ちょうど経済白書に「もはや戦後ではない」という言葉が登場した年でもある。また、３歳の時に経験した伊勢湾台風の際、両親の機転や近所の協力で助かったことが人生の１つの原点になっている。私は『昭和 40 年代男』という雑誌を愛読しているが、このころは古きよき時代で遊び心があった。「忙」という漢字は心を亡くすという意味もある。ときの流れをとらえつつ、常に元気さと遊び心を忘れずに職場で活躍してほしい。

５月中学校部会に参加して

５月中学校部会に参加した先生方から，様々な声が寄せられました。寄せられた「声」の中から一部を紹介させていただきます。

○　菊井中学校　沼山季代典　先生

初めて中学校部会に参加し、各分野の計画を聞き、一年間の見通しをもって実践に取り組むことの大切さを改めて実感しました。ご講演では、30 分という短い時間の中で、昭和、平成の時代を捉える豊富な資料とお話しがあり、時代の流れをつかむことが大切だと改めて実感しました。

○　猪子石中学校　竹村詩子　先生

何よりも印象に残っているのが、ご講演いただいた笠島先生のパワーです。「私は毎日生徒と同じバイタリティで接することができているだろうか」「興味を引き付ける教材の用意ができているだろうか」など、笠島先生の姿勢からたくさん学ばせていただきました。自分はもちろん、接している生徒たちが時間に追われ、心を亡くさないよう日々精進していきたいと思います。ありがとうございました。

授業力アップ研修グループ　リーダー・サブリーダーの紹介

いよいよ、グループ研修が始まりました。今年度も、各研修グループのメンバーの中から「サブリーダー」の役割を設けました。サブリーダーは、リーダーの先生の下で研修グループの中心となって会の運営を進めていきます。グループ組織を整えていくとともに、各研修グループのさらなる活性化と、若手会員がともに学び合う楽しさが味わえることを目指しています。

さて、以下に、今年度、授業力アップ研修グループのリーダー・サブリーダーとして、若手・中堅会員の育成にご尽力いただく先生方を紹介します。

今後、月に一回程度、社会科の授業づくりや学級経営などについてのグループ研修が行われていきます。

「小学校グループ」

グループ	名　前（学校名）
小1班リーダー	髙木秀樹先生（東山小）　桒原英輔先生（小幡北小）
サブリーダー	宇佐見智子先生（東山小）　渋澤保幸（吉根小）
小2班リーダー	酒井昭光先生（米野小）　岡部　　雄（城西小）
サブリーダー	北澤　陽先生（西前田小）　高木彬光先生（荒子小）
小3班リーダー	佐橋　誠先生（御園小）　堀　哲司先生（名城小）
サブリーダー	森山勇二先生（大宝小）　荒木健太先生（鶴舞小）
小4班リーダー	吉川朋秀先生（瑞穂小）　松本隆史先生（正木小）
サブリーダー	小西琴子先生（井戸田小）　岡田健吾先生（西山小）
小5班リーダー	齋田教子先生（西築地小）　木村暁子先生（明治小）
サブリーダー	市江寿朗先生（福田小）　伊藤　淳先生（桃山小）
小6班リーダー	小瀬垣範一先生（平和が丘小）　中村直子先生（原小）
サブリーダー	佐々木拓生先生（前山小）　加藤洋将先生（原小）

「中学校グループ」

グループ	名　前（学校名）
中1班リーダー	清水俊行先生（今池中）
サブリーダー	佐藤弘康先生（天神山中）
中2班リーダー	鈴木貴明先生(沢上中)
サブリーダー	野口哲平先生(笹島中)
中3班リーダー	森　健二先生（港明中）
サブリーダー	稲垣芳章先生（川名中）
中4班リーダー	山田幸雄先生（滝ノ水中）
サブリーダー	石田賢司先生（植田中）
中5班リーダー	牛島康太郎（天白中）
サブリーダー	秋田隼祐先生（守山北中）

若手会員、集まれ！

◆第１回授業力アップ研修グループ全体会

若手会員の一学期実践の発表と、六郷北小学校長 戸田 一 先生のご講演があります。

８月４日（火）18:30～ 愛知県スポーツ会館

日々雑感

名古屋市立志段味東小学校　教頭　黒神　秀智

４月、箱根山で火山活動が活発になり、付近一帯では地震が急増した。５月には、鹿児島県口永良部島の新岳が爆発し、噴火警戒レベルは最も高い５に引き上げられ、島の全ての住民が 12 キロ離れた屋久島に避難した。また、小笠原諸島西方沖でも地震が起きた。最大震度５強の地震で、関東の１都６県内のエレベーターが停止し、エレベーター内に多くの人が取り残された。我が国は、このように自然災害の多発する地域である。わたしたちが生活する東海地方では、マグニチュード９クラスの南海トラフ巨大地震の発生の緊迫性が指摘されている。南海トラフ巨大地震が発生したら、一体どれくらいの被害が出るのか計り知れない。今回の災害は対岸の火事と言っていられないものであり、まさに人ごとではない。自分ごととして考える、いや考えなければならないものである。今や防災に関する取り組みは、現代的な課題であると言える。

社会科の学習においては、小学校学習指導要領の第５学年に「国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止」で、国民一人一人が防災意識を高めることの大切さに気付けるよう一層重視すべきと示されている。その際、いたずらに災害を恐れるのではなくて、地域の特性を知り、「もし～なら」と、これから起きうる事態を想定し、対処法を考えさせることが大切である。災害対策でもっとも肝心なことは、子ども自身が「自分の身を守るのは自分」という自立心を持って動くことである。子ども自身が「自分ごと」として関わり、未来を見つめていくことができるようにさせたい。

社会科教師として、子どもが社会的事象に対して、「自分ごと」として関心をもち、関わり方を考えられるように、日々指導にあたりたいと思う。

今後の予定

７月 24 日（金）小学校部会　18:30～　愛知県スポーツ会館
　　中学校部会　18:30～　愛知県スポーツ会館
８月　４日（火）第１回　授業力アップ研修グループ全体会
　　18:30～　愛知県スポーツ会館
　　ご講演　六郷北小学校長　戸田　一　先生
８月　７日（金）フィールドワーク「三重」
９月　４日（金）小学校部会　18:30～　愛知県スポーツ会館
　　中学校部会　19:00～　愛知県スポーツ会館

今後の推進部会の予定

小学校３年生グループ	８月 ６日（木）	18:00～	星ケ丘小学校	（担当事務局　道徳小　梅村元）
４年生グループ	８月 20 日（木）	18:00～	八社小学校	（担当事務局　稲永小　植村宏明）
５年生グループ	７月 27 日（月）	18:00～	明倫小学校	（担当事務局　なごや小　浅野進）
６年生グループ	７月 31 日（金）	18:00～	中島小学校	（担当事務局　葵小　古橋大悟）
中学校地理的分野グループ	７月 21 日（火）	18:00～	冨士中学校	（担当事務局　はとり中　高橋直樹）
歴史的分野グループ	７月 21 日（火）	18:00～	久方中学校	（担当事務局　天白中　伊藤嘉浩）
公民的分野グループ	７月 16 日（木）	19:00～	大江中学校	（担当事務局　大森中　立野淳一）

参加を希望される方は、各グループの担当事務局までご連絡ください。